

【背景と目指す姿】

- 宇都宮東部地区は、清原、平石、瑞穂野地区からなり、当組合はそれらの地区の米麦や露地野菜の担い手から構成される。
- 清原地区の水田は、江川沿いの谷地や清原南部地区の台地上に点在しており、担い手が米麦経営を行っているが、今後は、需要に応じた作物の生産を進めていく必要がある。
- そこで、水田を生かした露地野菜の生産として、企業と連携したやまといもの生産を軸として、白菜やブロッコリーなどの輪作を行う。
- なお、販路については、現時点で取引を行っている企業やスーパーとの契約栽培を継続しながら、新規の販路開拓にも力を入れていく。将来的には、平石、瑞穂野地区の意欲ある担い手に対し加入を推進し、東部地区全体として露地野菜の産地形成を目指す。

1 水田における露地野菜転換面積

現状(令和元(2019)年度):0円

⇒ 目標(令和4(2022)年度):40,000千円

2 主な取組内容(令和2(2020)～令和4(2022)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・露地野菜の意欲のある担い手に対し組合への加入促進 ・園芸団地形成に向け優良苗や資材等の調達や排水対策 ・農地中間管理事業の活用による農地の集約化
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・土上げ機や堀取機の導入による作業省力化 ・機械作業のオペレーターの養成やオペレーターへの作業委託による分業化 ・やまといもの導入により、冬場への労働力の分散
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会や栽培講習会による栽培技術の向上を図り、高品質・高収量の生産体制を構築 ・契約取引による安定的な出荷体制の構築 ・食品企業との商談やマッチング事業の活用による新たな販路の確保



やまといも中耕後の様子



本事業で導入したやまといもの中耕機